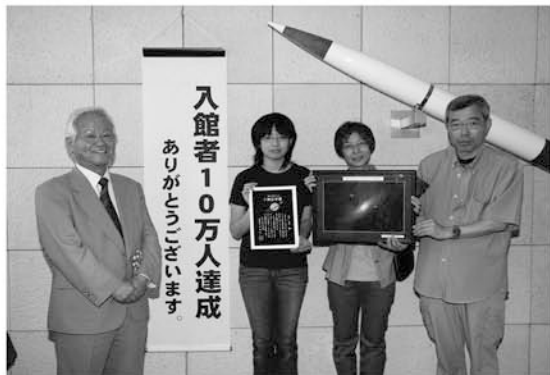




天文台だより

銀河の森天文台
2006 秋号
Vol. 33

天文台入館者10万人達成！！



銀河の森天文台は平成10年7月7日のオープンから数え延べ2,011日(開館日)経った8月5日午後5時30分で入館者が10万人を達成しました。めでたく10万人目の入館者となったのは、宮城県仙台市から訪れた大宮さん家族で14歳の娘さんでした。ご家族は天文台オープンの翌年から7年連続でコテージ村に泊まり、天文台を訪れているということで「毎年来てよかったです」と話していました。10万人目の入館者には記念品として、入館証明書や家族全員に天文台特別年間パスポートなどが町長から手渡されました。これからも皆さんに愛される天文台を目指しスタッフ一同勤めて参りますので、今後とも銀河の森天文台をよろしくお願いたします。

館長コラム「冥王星」

今年の春号に書いた惑星とは何かという論議に一応の決着がつかしました。ニュースでご覧になったように国際天文学連合(IAU)総会において、惑星とは「ある大きさ(直径や重さ)を持っていて、その軌道付近に他に匹敵する天体がないもの」と定義されました。その結果、太陽系の惑星は「水金地火木土天海」の8個で、冥王星は惑星の範疇から外されました。今後は準惑星と呼ばれることとなります。冥王星がなくなるわけではありません。



(山下館長)

海王星の運動の異常さから未知天体があると予言したのはローエルで、その予言にしたがって冥王星を発見したのはローエル天文台(米)のトンボー、1930年2月、ローエルの死後14年目のことでした。このような経緯から冥王星は第9惑星として認知されました。ところが調べてみると、冥王星の質量は地球の千分の2程度で、地球の17倍もある海王星の運動に影響を及ぼすほど重くなかったのです。今ではトンボーの発見は偶然だったと考えられています。1990年代以降、海王星の外側に多くの天体(小惑星)が発見されています。冥王星は其中で大きいものという格付けです。

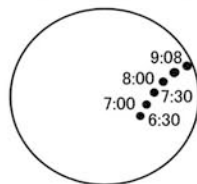
太陽系惑星の数が9個から8個へ

これからは、水・金・地・火・木・土・天・海。

2006年8月24日、国際天文学連合(IAU)総会で数年前から議論を重ねてきた太陽系の惑星の定義が決議され、冥王星が惑星の定義から外れました。これによって、太陽系の惑星の数は8個になりました。

11月9日、水星の日面通過！！

11月9日の日の出とともに、惑星の水星が太陽の前を通る「日面通過」という現象が起きます。この現象は、太陽、水星、地球が一直線に並ぶために起きる現象です。今回日本では、水星が太陽面に入る時刻は、まだ日が出ていなく、日の出の時刻(6:06)には、水星はすでに太陽面にあります。次回は、10年後の2016年5月9日に起きます。



☆星のトリビア「衛星の数」

衛星とは、天文学辞典を見ると、「惑星のまわりを公転する天体のこと」とあります。地球でいうと月のことです。今回の国際天文学連合(IAU)総会の決議で冥王星が惑星から除外されたことで、その衛星3個(カロン、ヒドラ、ニクス)も惑星の衛星から外れることになりました。ヒドラとニクスの発見は2005年10月末で、まだ1年も経っていないのに残念なことです。従って、8月末現在、発見されてる太陽系惑星の衛星は、木星63個、土星59個(3個は確認中)、天王星27個、海王星13個、火星2個、地球1個、合計167個です。ところで、冥王星より大きな衛星は7個あります。大きい順から、ガニメデ(木)、タイタン(土)、カリスト(木)、イオ(木)、月(地)、エウロパ(木)、トリトン(海)です。その中でもガニメデとタイタンは、水星よりも大きな天体です。(村)

暦表

(陸別町)

	日の出	日の入	月齢	月の出	月の入
10月 1日	5:18	17:10	8.6	13:58	22:33
10月 15日	5:35	16:46	22.6	23:15	14:01
11月 1日	5:56	16:21	9.9	14:03	0:09
11月 15日	6:14	16:04	23.9	0:18	13:29
12月 1日	6:33	15:54	10.2	13:11	1:45
12月 15日	6:47	15:53	24.2	1:12	12:24

天文行事&暦

10月

- 6 中秋の名月
- 6,7 名月観望会
- 7 〇満月
- 8 寒露(24節気:太陽黄経195°)
- 13 水星が東方最大離角
(光度:+0.0等, 離角:24° 49')
- 22 ●新月
- 23 霜降(24節気:太陽黄経210°)

11月

- 5 〇満月
- 7 立冬(24節気:太陽黄経225°)
- 9 水星の日面通過
(第1・2接触時は日の出前、
9:08 第3接触、9:10 第4接触)
- 21 ●新月
- 23 小雪(24節気:太陽黄経240°)
- 25 水星が西方最大離角
(光度:-0.5等, 離角:19° 54')

12月

- 5 〇満月
- 7 大雪(24節気:太陽黄経255°)
- 14 ふたご座流星群観望会
21時 ふたご座流星群が極大
(最大50個/時)
- 20 ●新月
- 20-1/14 町民無料観望会
- 22 冬至(24節気:太陽黄経270°)

秋のイベント情報 !!

☆名月観望会

10月6日は中秋の名月です。秋の空に浮かんだお月様はなんとも美しいものです。この日はゆっくりと月見をお楽しみ下さい。

開催日時: 10月6日(金)、7日(土)

説明会: 午後7時から

☆町民無料観望会

12月20日(水)~1月14日(日)の期間、町民の皆さんへ天文台の無料開放を行います。団体、サークル活動の一環としてのご来館も是非どうぞ。

☆ふたご座流星群観望会

ふたご座流星群が12月14日の午後9時に極大時刻を迎え、これを前後して流星が多く見られると予想されるため観望会を開催します。

開催日時: 12月14日(木)

説明会: 午後7時から

「天文台あれこれ」- こんにちは! 受付です。-

夏休み期間、天文台にはたくさんのお客様がいらっしゃいました。星を見るのを楽しみに毎年来ているというお客様、夏休みの自由研究のために熱心に話を聞きに来る小学生、コテージに泊まりに来た夜に天文台にやってくる家族、晴れた日は決まってやってくる常連のお客様etc…。受付の席からは天文台を楽しむ様々なお客様の姿を見ることが出来ます。みなさん天文台に来ると、まず受付の私たちに「今日は星見えますか?」と心配そうにたずねてきます。曇っているときには私たちも心苦しい気持ちでお客様に対応しますが、晴れて星を見ることができるとみなさん大喜びで「とってもきれいに見えました!!」「遠くから来た甲斐がありました。」「また来たいです」「ありがとうございます」と一声掛けてくださり、私たちも本当に嬉しい気持ちでいっぱいになります。1人でも多くのお客様に喜んでいただけるように、そしてここで星を見た感動を忘れずにお客様一人一人が星や宇宙に少しでも関心を抱いてもらえるように、受付からも快い対応をしていきたいと思っています。

「天文茶話」- 月夜の晩 -

今年ももうじき中秋の名月。名月といえばススキやお団子などをお供えて月を眺めます。日頃私たちは何気なく月を見上げていますが、月は私たちの生活にさまざまな影響を与えています。よく言われるのが出産に与える影響で満月と新月の1日前と3日後に生まれる子どもが多いといわれます。また一方では、満月になると精神状態が不安定になり、犯罪が増えたり大きな事件・事故がおこるともいわれます。なにしろ月は海水を大きく動かす程の力があるくらいですから、月が私たちの心や体に与える影響も無視できない事柄でしょう。そんな月の不思議な力を感じつつ、たまには月夜をゆっくりと眺めてみませんか。(寛)

天文台からのお知らせ

- ☆ 10月より開館時間が、13:00~21:30となります。(昼間13:00~17:00、夜間17:00~21:30)
- ☆ 12月30日(土)~1月5日(金)の期間は、天文台休館日となります。

発行・編集: りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)

〒089-4301 北海道足寄郡陸別町宇遠別 TEL: 0156-27-8100 FAX: 27-8102

URL: <http://www.rikubetsu.jp/tenmon/index.html>

E-mail: ginga@rikubetsu.jp